

* 明治22年(1889年)の太陽観測録発見

図書室から蔵書としては不都合な古いノートがあるとアーカイブ室に渡された明治22年の太陽観測野帳(写真1)がある。記録者の名前は「平山理学士代 渡邊 恒」とある。アーカイブ室が無ければ図書が保管するものかもしれないが、アーカイブ室所蔵が適当であろうと引き受けた。

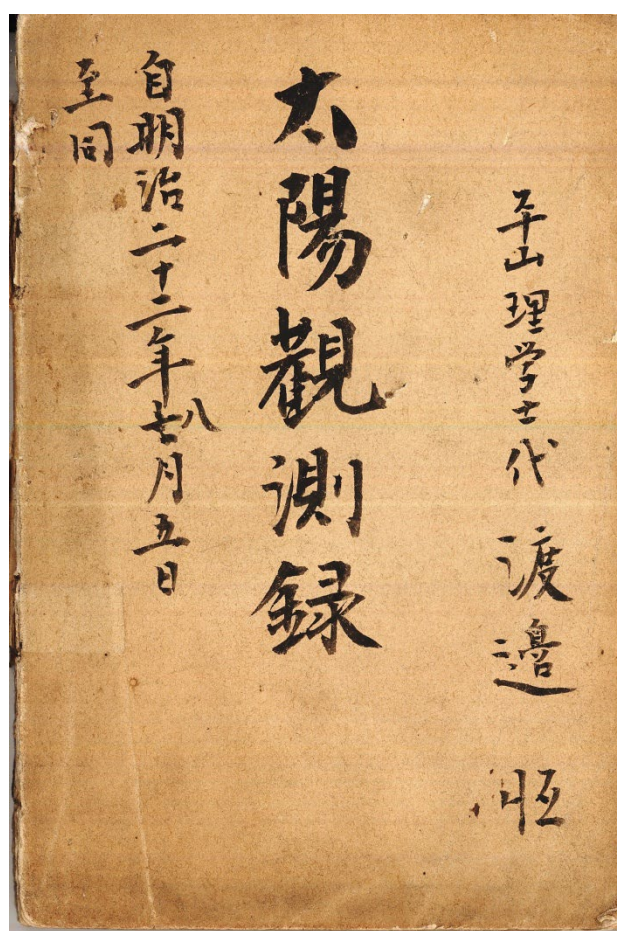


写真1

ページをめくってみると、太陽の観測記録と思われるものは10日間ほどで、その後は恒星の観測記録のようである。記録者の渡邊 恒の東京天文台在職期間は不詳であるが、東京天文台90年史の旧職員の蘭には、初代台長寺尾寿の次に名前が記載されている(写真2)。この旧職員名簿は、退職時に本官以上、または10年以上在職したその他の職員について載せてある。平山理学士代理とあり、1889年に在職した平山理学士とは、第2代東京天文台長であった平山 信である。明治22年(1889年)は東京天文台設立からまだ1年しか経て

いない時期である。

氏名	在職年月	氏名	在職年月
寺尾 寿明	16. 3—大 12. 8	高橋 卯	(不詳)
渡辺 恒	(不詳)	柴山 正邦	"

写真2

野帳に記載された内容は筆者にはよくわからないが、太陽面に現れた黒点に西から、a、b、c、d、e、f、g・・・と符号が打たれ、その後に3つの数字が書かれている(写真3)。

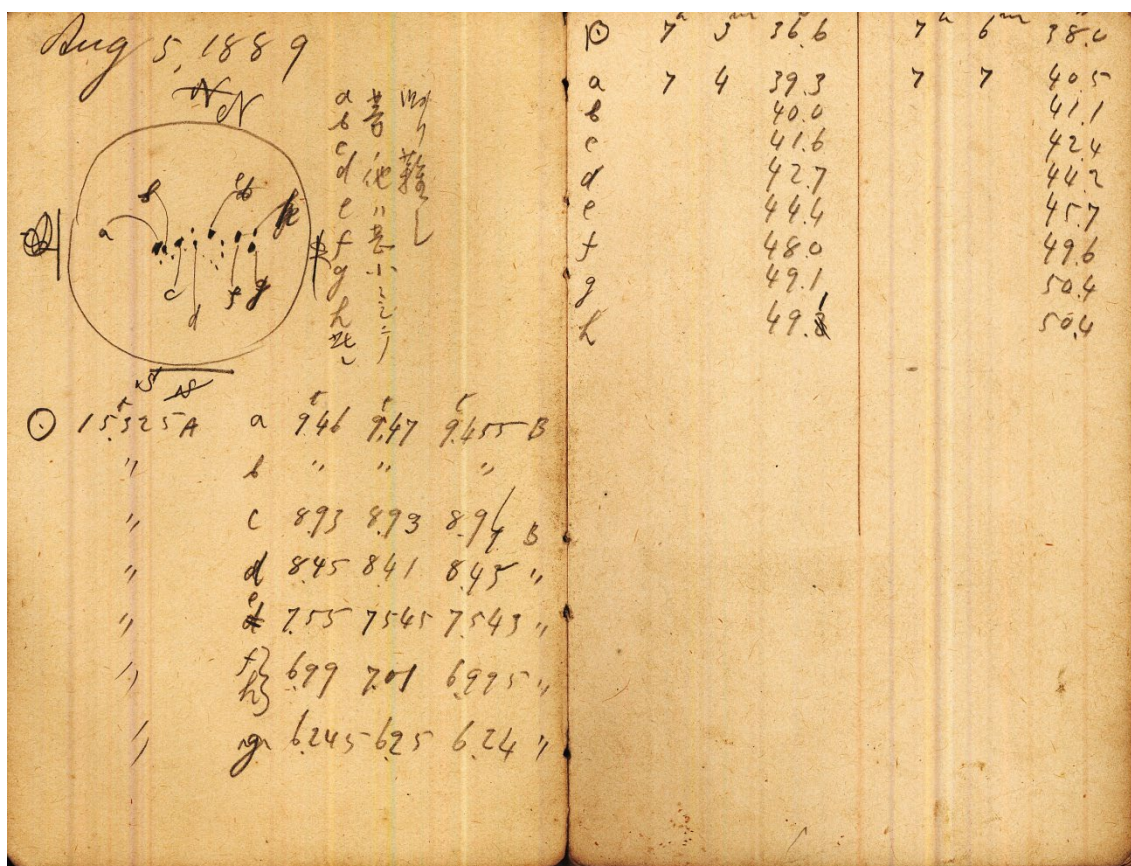


写真3

太陽の観測記録と思われる日付は、1889年8月5日、6日、7日、8日、9日、10日、15日、16日、17日のみで、11日～14日は写真4のメモがある。

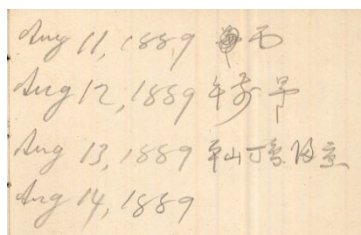


写真4

11日は雨、12日は午後曇り、13日は平山・・・とあるが読めない。14日は記載が無い。15日の右ページには何やらメモがあるが判読が難しい（写真5）。

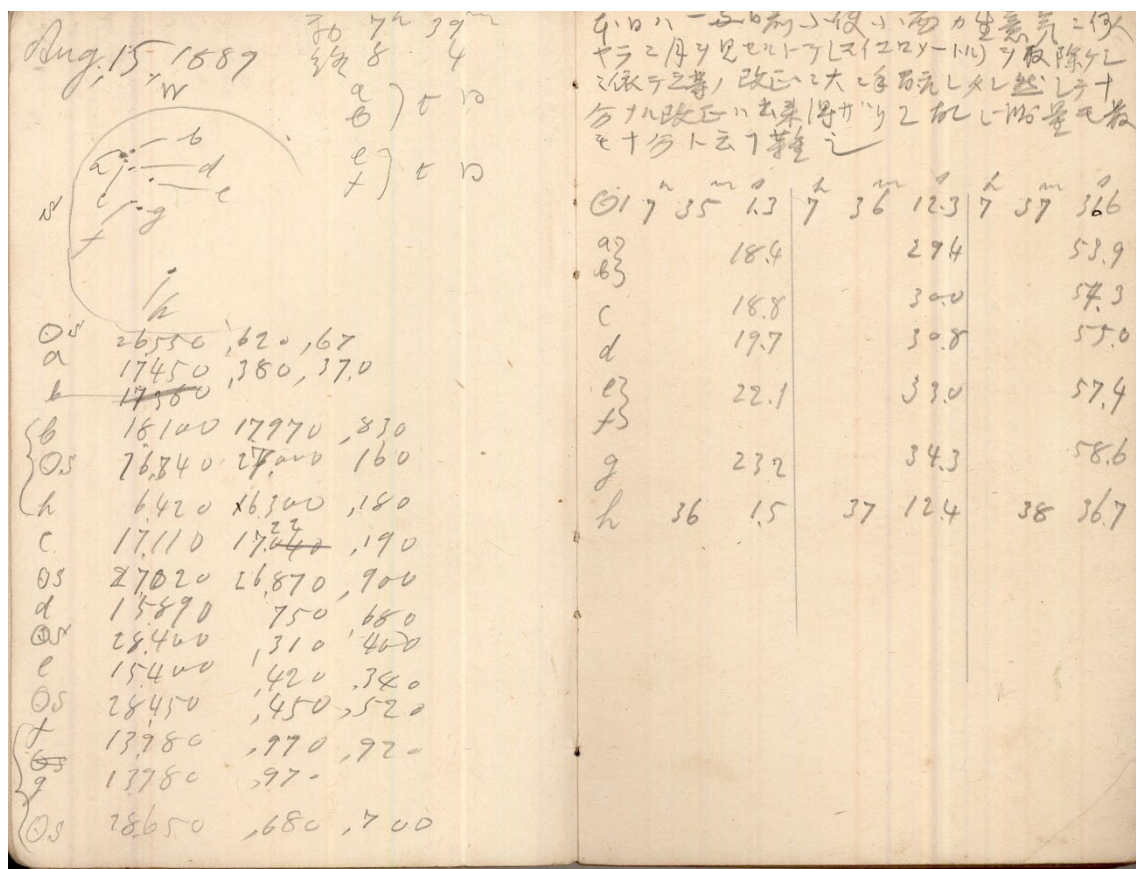


写真5

1891年9月5日には、彗星についての記述がある(写真6)。

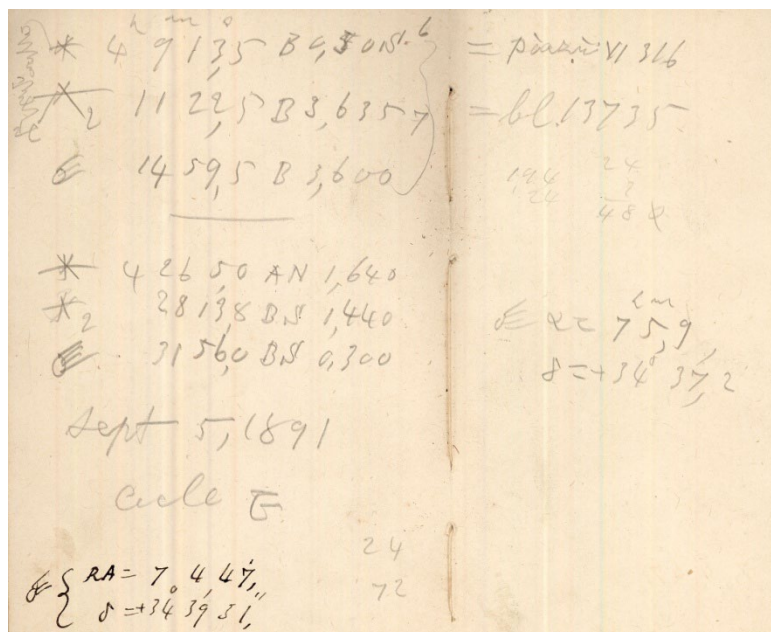


写真6

また、1891年8月30日のページ(写真7)には、この彗星と36 Draconis についての記述があるがなにを記録してあるのか判読できない。これ等について分かる方がいたらお知らせいただくとありがたい。

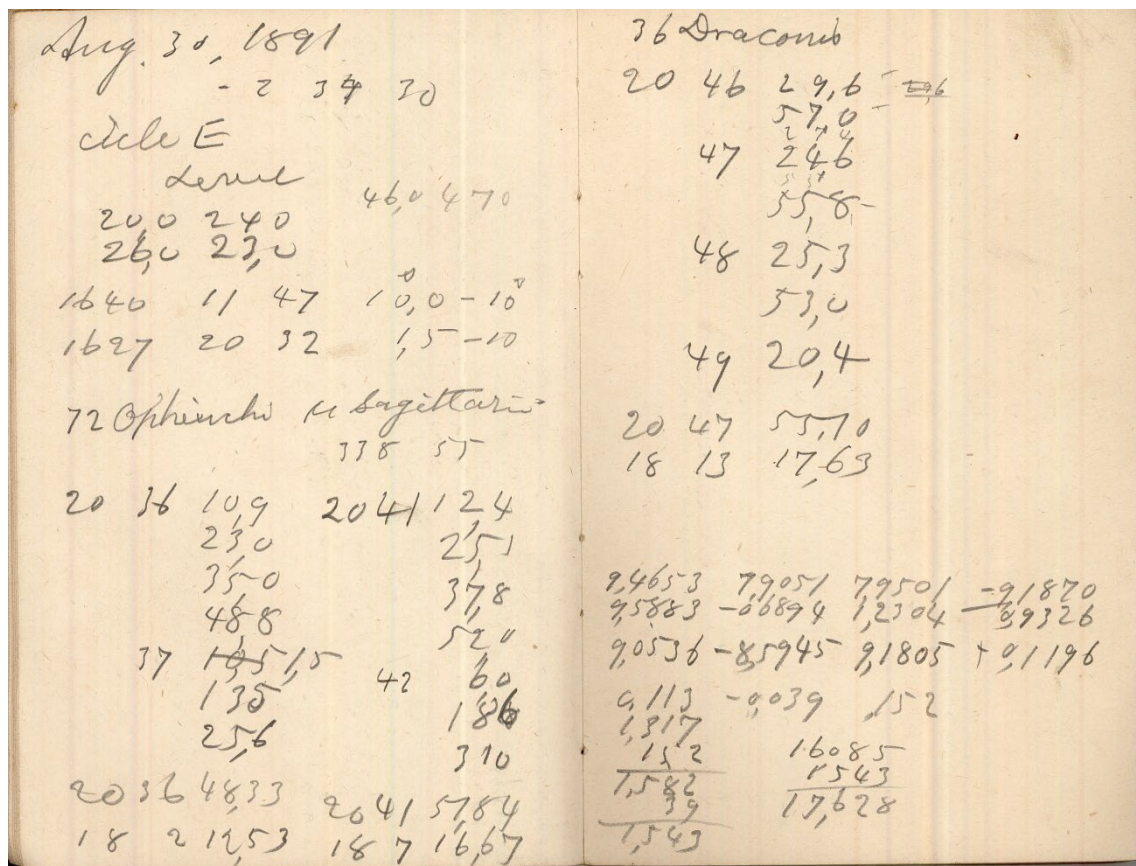


写真7